

学校法人常磐大学 広報誌 TOKIWA POST [トボス]

Topos

vol.80
Nov. 2016

「特集」
ワタシたちの選挙



砂金ゼミのみなさん

(前列左から)

渡辺 真帆、荻原 大徳、
砂金 祐年 准教授、鶴田 都子

(後列左から)

本田 永里香、佐藤 良樹、
宮崎 莉菜、鈴木 康孝、
田子 舜一

Isago Seminar Project

【特集】

ワタシたちの選挙

砂金ゼミが若者のための選挙教育を実施

選挙権年齢が18歳に引き下げられてから最初の国政選挙となった7月の参議院議員選挙。この選挙では、初めて主催者として投票する大学生も多く、コミュニティ振興学部で政治学を教える砂金祐年准教授のゼミでは、ゼミ生たちが主体となって、選挙について学ぶための企画を考え、実施してきました。政治を「我がこと」として考えてほしいという砂金ゼミの狙いのもと、高校生を含めた18、19歳の若者に対して行った取り組みを振り返って、ご紹介しましょう。

なるべく分かりやすく伝えることを心掛けました。

私たちはゼミで政治に関する内容を学んでいるため、選挙にも比較的関心がありましたが、今回の体験を通して、人々の政治参加への意識は千差万別だということを実感しました。選挙は、社会に自分の意見を示す一番身近な方法だと思います。若者自身が、政治について考え、意見を示す流れをつくるために、難しい内容をなるべく分かりやすく伝えようと思いをこめて心掛けました。今後も、選挙に関心が薄い人や投票することに自信がない人に、どう働きかければよいかを考えていこうと思います。

鶴田 都子 コミュニティ振興学部 地域政策学科 3年



INTERVIEW

若者が政治の当事者という意識を持つために。

大学生全員が有権者になったことを機に、政治は遠い世界の出来事ではなく、自分たちの生活や将来に密接にかかわっていること、自分も政治の主人公の一人だということを感じてみたいと思っていました。企画のほとんどはゼミ生たちが考えたものですが、高校生や大学1・2年生に教える立場になって、知識を正確にするため彼らもずいぶん勉強したようです。今後もこうした選挙教育を継続し、先輩が後輩に教えることで、政治への関心を高める流れをつくることをめざしています。

砂金 祐年 准教授 コミュニティ振興学部 地域政策学科



1

模擬演説会・模擬投票

候補者役の学生3人が

参院選の争点をもとに演説しました。

6月13日、1・2年生が受講する「政治学概論」の授業の一環として模擬演説会と模擬投票を行いました。模擬投票の前には、砂金ゼミ生3人が架空の政党の候補者になって模擬演説会を開催。受講していた学生は、事前にそれぞれの主張を盛り込んだ選挙公報を見て、政策を調べてくることが課題でした。演説では実際の参院選でも争点とされていた問題を取り上げ、それぞれ「活気ある地域づくり」「国民の負担の少ない政治」「TPP促進・憲法9条改正」を打ち出しました。結果は「奨学金制度の充実」など学生にも関心の高い政策を訴えた宮崎さんが当選しました。大学生が行う選挙教育に注目した県内の高校から依頼があり、11月に県内の高校に向いて模擬演説会と模擬投票を行います。政策や演説にさらなる工夫を加える予定です。



演説会の後、学内の投票所へ移動し、実際の選挙でも使われる投票用紙や投票箱で、選挙区と比例区の投票を実施しました。



演説のため選挙の争点を調べて学んだことや政見放送を繰り返し見たことが、自分が投票するときの判断にも役立ちました。

VOICE



2

高校生に対する選挙教育

常磐大高校で選挙に関する出張授業。

賛成・反対、双方の意見を解説しました。

6月16日には常磐大学高等学校で、選挙に関する出張授業を行いました。はじめに水戸市選挙管理委員会の方から、選挙の仕組みや投票の仕方、選挙違反に関わる注意点などについて説明していただき、学生は参院選の争点である消費税の増税や給付型奨学金、憲法改正について、賛成・反対それぞれの意見を分かりやすく解説しました。準備や資料作成にあたっては普段ゼミで何気なく使っている用語の理解が不十分だったことに気づき、人に説明するためには一段深く理解する大切さを痛感。ゼミのメンバーの協力もあり、最終的には納得できる仕上がりになりました。取り上げた争点は高校生にも身近なものであり、また、投票を前にした3年生約70名が対象だったため、メモを取り、熱心に聞いてくれる様子に学生たちはやりがいを感じていました。



高校生に向けて解説する鶴田さん。この授業が有権者として社会に関心を持つきっかけになることを願っています。

VOICE

高校生に間違った情報を伝えるないように、発言は注意深く行いました。自分の言動に責任をもつことを習慣づけたいです。



3

期日前投票所の設置

学生がスタッフとして参加し、

気軽に投票できる雰囲気づくりを行いました。

参院選に向け、県内では5大学6カ所に期日前投票所が設けられ、常磐大学のキャンパスにも期日前投票所が設置されました。対象は水戸市内在住の本学学生と教職員に加え、近隣地域の有権者の方です。設置は7月4日の1日限定でしたが、ゼミ生たちはスタッフとして準備にあたり、期日前投票所のイメージを向上するため、さまざまな方法を試みました。例えば、スタッフがそろいのTシャツで投票を呼び掛けることもその一つ。また、暑い時期の開催であることを考慮して、ウェルカムドリンクでもてなすなど、気軽に投票に参加してもらおうための工夫を用意し、当日は期日前投票所で受付などの事務も担当しました。若者の投票率を高めるためにも、若い世代がどんどんかかわって、こうした取り組みを受け継いでいくことが大事だと考えています。



学内に設置された期日前投票所を利用した学生からは、授業の合間に投票できるので便利、といった声が聞かれました。



VOICE

住民票が地元にあつて投票したくてもできないという学生も多かったようです。もっと選挙に参加しやすいシステムづくりも今後の検討課題でしょう。



常磐大学が変わります!

総合政策学部開設

College of Management and Administration

常磐大学は国際学部とコミュニティ振興学部を改組転換し、2017年、新たな学部学科として再編します。新学部は、高度情報化・グローバル化・少子高齢化などによって生じている社会のさまざまな問題に、3つのアプローチから取り組み、地域の魅力や課題を発見して、地域を元気にする実践的能力を備えた人材を養成します。



総合政策学部長(就任予定)
日向野 弘毅 教授

新学部は現代社会の課題に立ち向かいます。

2017年4月にスタートする総合政策学部は、社会が直面している課題を自ら解決できる人材の育成を目標としています。そのために、2年次から少人数のゼミナールに所属し、課題を発見する力やコミュニケーションの力を養います。さらに各学科ともにプロジェクト型の学習を積極的に取り入れ、企業や自治体、NPOなどの現場に触れながら、学んだ知識を実践で生かす経験を積むことができます。また、グローバル化や学際的な取り組みが表面的なものにとどまらないよう、教養を身に付けることも重視しています。思想や芸術、文化といったリベラルアーツの基礎があってこそ、専門的な知識を社会で活用できるからです。3学科はいずれも他学科の科目を履修できる柔軟なカリキュラムになっています。知の交流の中で、複雑化する現代の課題に対する豊かな発想と、多様な視点を学ぶことを期待しています。

経営学科

Department of Management

国際感覚に優れたビジネスリーダーを養成。

社会のグローバル化、企業活動の多様化・複雑化に対応し、幅広い教養を基礎として国際的なバランス感覚と専門的なマネジメント知識、ビジネススキルを身に付けた人材を育成します。企業や地域社会の課題解決に貢献できるリーダーシップも養います。

学びの特色

- 「経営・マネジメント分野」「商業・マーケティング分野」「財務・会計分野」から目的や進路に合った学びが選べます。
- 1年次から演習科目を配置し、企業のリアルな情報やビジネスの現場に触れて実践能力を高めます。
- 授業で学んだ理論や知識をさらに発展させ、社会で役立つさまざまな資格試験の取得をめざします。



取得できる免許・資格

司書、学芸員、社会教育主事、秘書士(国際秘書)

めざす検定・資格

日商簿記検定 3級・2級・1級、税理士試験、秘書検定 3級・2級・準1級、経営学検定 初級・中級、一種・二種外務員資格、FP技能検定 3級・2級、ビジネス会計検定 3級、販売士検定 3級・2級、マイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS)、ITパスポート試験

めざす進路

ビジネス最前線で実務能力を発揮し、地域経済の担い手となります。

- 経営・マネジメントの分野
管理職・役員／プロジェクトリーダー／起業家／経営コンサルタント／営業・販売
- 財務・会計の分野
公認会計士／税理士／税務・会計事務所／金融業／経理・財務部門
- 商業・マーケティングの分野
商品開発／宣伝・広告／営業・販売／プランナー
- 行政・公共サービスの分野
国家公務員／地方公務員

法律行政学科

Department of Law and Administration

法的思考を身に付け、豊かな社会づくりに役立てる。

民法などの基本的な法、国や地方自治体などの組織や制度について学習し、法を学ぶことで、現実の問題の合理的解決法を模索するリーガルマインドを身に付けます。さらに、人々の豊かな生活や安心安全な社会を実現する方策について深く学びます。

学びの特色

- 憲法、民法、刑法などの基本的な法と国や地方自治体などの組織や制度に関する科目をバランスよく学びます。
- 法律行政分野では、憲法における統治機構、民法における家族法、商法、行政法、地方自治法などの科目を学びます。
- 社会安全分野では、犯罪学、刑事政策、被害者学、社会安全政策演習などを通じて、根拠に基づいた説得力のある政策提言を学びます。



取得できる免許・資格

司書、学芸員、社会教育主事

めざす検定・資格

法学検定、ビジネス実務法務検定、宅地建物取引士、ファイナンシャル・プランニング技能検定

めざす進路

国家公務員、地方公務員(公安・行政職)、行政書士、司法書士、社会保険労務士、警察官、消防官、自衛官など、安全・安心な社会の実現に貢献できる人材をめざします。

- 公安系公務員
警察官／消防士／法務教官／刑務官／自衛官／警察事務
- 一般行政系公務員
市町村役場／都道府県庁／国家公務員一般職
- 法律系専門職
司法書士／行政書士／社会保険労務士
- 民間企業

総合政策学科

Department of Policy Management

政治や経済の視点をもった地方創生を担う人材を養成。

地域を取り巻く複雑な問題を理解するため、社会の営みと政治・経済との関係をはじめ、文化、環境などの政策について幅広く学びます。さらに地方創生や観光ビジネスについても学び、地域に貢献できる人材を育てます。

学びの特色

- 地域を歩き、地域の資源を発見・記録し、発信することで、地域の活性化を実践的に学習します。
- 学生主体の問題解決型の演習を通じて、地域課題を実践的に解決する「政策立案能力」を育成します。
- まちづくりイベントやボランティアに参加し、地域の人々と課題の解決に取り組んだり、自治体や生活者と連携して政策提言を行います。



めざす検定・資格

司書、学芸員、社会教育主事、デジタル・アーキスト(受験資格)、ISO14001内部環境監査員(研修による取得)

めざす進路

行政やまちづくり、サービスの分野で地域が直面しているさまざまな問題に取り組み、具体的な解決策を提示できる人材をめざします。

- 行政・公共サービスの分野
市町村役場／都道府県庁／
図書館司書／美術館／博物館(学芸員)
- まちづくり関連
NPO法人職員／団体職員
- サービスの分野
観光業従事者／旅行代理業従事者

News and Topics

学生、生徒、園児たちは日々学び、経験し、成長を続けています。
このページでは学校法人常磐大学の各学校の取り組みやイベントの様子をはじめ、
日々の活動とその成果をお知らせします。

水戸医療センターと 看護職者の養成に関する協力を 合意しました。

6月23日、独立行政法人 国立病院機構 水戸医療センターにおいて、「水戸医療センターと常磐大学における看護職者の養成に関する協力の合意」について会見を行いました。まず、水戸医療センター山口高史院長より、水戸医療センターの持つ質の高い教育環境と人材を大学・大学院の教育に活かすこと、また、その人材の受け皿となって地域社会に広く貢献することが示され、このような考えの下、看護大学誘致に係る公募をした結果、事業受託者が常磐大学に決定したことが報告されました。続いて、森征一理事長、富田信穂学長が、看護学部（仮称）新設を決定した理由や経緯、方向性などを説明しました。今後、常磐大学は、2018年4月の看護学部（仮称）設置に向けた準備を進めます。



「TOKIWA TOWN～あなたの夢で創る町～」 というスローガンのもと 第40回ときわ祭を盛大に開催しました。

6月4日・5日の2日間、ときわ祭を行いました。記念すべき第40回の今回は「TOKIWA TOWN ～あなたの夢で創る町～」というスローガンのもと、学校を一つの「町」に見立て、その町の住民たる生徒たちがゲストをもてなすというコンセプトで実施しました。チアとダンス部の演技に続いて、1年生各クラスの発表はダンス・寸劇・催し物のCMなど趣向を凝らしたものでした。2・3年生も温かい拍手をおくり、場を盛り上げてくれました。6月5日の一般公開日には、約4,250名のお客様をお迎えし、生徒たちの活動や発表をご覧いただきました。生徒たちは、たくさんの方々へ感謝し、今回のときわ祭をよい思い出にして、今後よりいっそう充実した学校生活を送ってくれることでしょう。閉会式では、発表や各部門で完成度の高かったクラスや部活動に賞が贈られました。



いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアムに 新たに9校が参加。全県13高等教育機関の ネットワークが誕生しました。

県内の高等教育機関でつくる「いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム」は、茨城大学、茨城キリスト教大学、茨城工業高等専門学校、常磐大学の4校に加え、8月3日、9つの大学が新たに参加することが決まり、県内全域に広がる高等教育機関13校のネットワークが誕生することになりました。今回新たに加わったのは、茨城県立医療大学、茨城女子短期大学、筑波大学、筑波学院大学、筑波技術大学、つくば国際大学、日本ウェルネススポーツ大学、放送大学（茨城学習センター）、流通経済大学の9校です。8月3日の記者発表会では、各校の代表者が一堂に会し、活動への意気込みを一人ずつ語りました。富田信穂学長は「コンソーシアムの行う事業に積極的に参加して、地域の発展に寄与したい」と述べました。





智学館

さまざまな活動に取り組んだ3泊4日の学習合宿。
互いに刺激を受け、成長しました。

7月4日から、つくば市のつくばグランドホテルにて3泊4日の学習合宿を実施しました。合宿中は、自学自習を多く取り入れたほか、さまざまな活動に取り組み、学習だけではない充実した時間を過ごしました。1年次生はJAXA(つくば宇宙センター)見学や筑波山登山に挑戦。筑波山は湿度が高く、大変でしたが、良い思い出になりました。また他の年次では、大学の先生をお招きして「ギャンブルは儲かるか」、「磁石なんでも講座」などの講義を体験したり、学年を越えた討論や日本の昔話の英語劇などに意欲的に取り組んだりする姿が見られました。先輩・後輩・友人たちが互いに勉強に打ち込む姿勢に刺激を受け、実りの多い4日間になりました。



法人

「常磐大学&水戸ホーリーホック コラボデー2016」の
運営を一丸となってサポートしました。

8月21日開催の地元Jリーグチーム水戸ホーリーホック対カマタマーレ讃岐戦において、常磐大学と水戸ホーリーホックとのコラボデーを実施しました。当日の入場者数は4,105人。試合開始前には国際学部経営学科2年生の企画・運営した各種イベント(ボールを使った4種のゲーム、ペイントシール&フォトコンテスト、手形でつくる応援メッセージ、サッカーにまつわるクイズなど)に多くの来場者が参加し、試合観戦前の会場の雰囲気を楽しんでいました。また、高校女子サッカー部による前座試合、高校チアリーディングによるダンスパフォーマンス、智学館の生徒によるフェアプレーフラッグベアラー、幼稚園児によるエスコートキッズも登場したほか、多くの学生・生徒・園児が運営サポートに協力し、スタジアムを盛り上げました。



短大

「茨城県ゆうあいスポーツ大会」で
幼児教育保育学科がボランティア活動を行いました。

短期大学幼児教育保育学科の1年生が、5月22日に開催された第18回「茨城県ゆうあいスポーツ大会」レクリエーション競技で、ボランティア活動を行いました。このボランティア活動は「心の充実」の授業の一環で行われ、障がいのある方とふれあい、理解を深めることを目的としています。当日は、県内の施設や学校、職場などに在籍する障がいのある方たちがさまざまな競技に参加。学生は、参加者の受け付けや、誘導、用具の管理などを担当しました。最初は遠慮がちだった学生たちも、次第に施設職員の方たちと積極的にコミュニケーションをとって意欲的に動き、これから2年間を共に学ぶ仲間たちと助け合いながら、大会の運営をサポートしました。



幼稚園

毎年3回実施する
入園説明会の第1回目を開催しました。

来年度入園希望の親子に向けて、「入園説明会・みんなで遊ぼう」の第1回を7月12日に行いました。入園説明会では教育方針をはじめ、本園ならではの特である保育についてパワーポイントを使い分かりやすく説明。昨年度の主な活動をスライドで上映したほか、年長児が歌で歓迎するなど、できるだけ本園らしさを知っていただくように努めました。「みんなで遊ぼう」では施設もご覧いただきながら、親子で年少、年中、年長の各クラスに自由に入り、在園児と一緒に楽しく遊びました。アンケートからは、「園児一人ひとりの生き生きとした表情が見られました」「先生方が優しく声をかけてくれ温かさを感じました」などのコメントをいただいています。これを励みにしながら、日々の保育を大切にしていきたいと考えています。



大学

「みなとメディアミュージアム2016」のワークショップを那珂湊第一小学校で開催しました。

6月30日に「みなとメディアミュージアム(MMM)2016」のワークショップを那珂湊第一小学校で開催しました。MMMはひたちなか市那珂湊地区を舞台に毎年8月に開催される地域活性化を目指したアートイベントで、他大学の学生と協働してイベントを運営しています。今回は、旗作り、旗の文字入れ、ヘッドマークショップの3つのワークショップを企画。本学が担当した旗の文字入れでは、みんなが考えた「まちのよいところ」をテーマにまちの特産物や文化財などを紹介するキャッチコピーを旗に書き込んでもらいました。活動を通して、アートの力やまちの魅力を子どもたちと再発見することができました。



智学館

3・4年次生がインターンシップを体験。将来の職業選択について考える機会をいただきました。

3・4年次生が夏季休業中にインターンシップ体験を行いました。今年は、生徒自らが研修先を見つけました。おかげさまで病院や農業協同組合、保育園など38事業所にご協力いただき、実際の仕事現場を肌で感じることができました。職業を疑似体験するだけでなく、そこで働く方々の仕事に対する意識や誇り、そして社会で求められる礼儀などを学ぶことができました。自分の将来の職業について関心を深める良い機会となりました。



高校

2016カナダサマーキャンプと3ヵ月語学留学が実施されました。

8月16日、10日間語学研修プログラム(サマーキャンプ)の参加者13名と、3ヵ月語学留学プログラムの参加者3名、合計16名がカナダアルバータ州のエドモントンに出発しました。サマーキャンプではハリーエインリー高校での語学研修に加え、エドモントン市内視察やロッキーマウンテンツアーを通して、カナダの文化や大自然を体験。3ヵ月留学参加生徒は、ハリーエインリーの生徒として11月まで現地で高校生活を送ります。また11月にはハリーエインリーの生徒23名が水戸を訪れる予定です。



智学館

カリフォルニアから学生親善大使が来校。交流を深めました。

6月27日、水戸市と国際親善姉妹都市協定を結んでいるカリフォルニア州アナハイム市から、学生親善大使6人が来校しました。歓迎会では、応援合戦の披露に始まり、ゲーム形式で自己紹介をした後、アナハイム市に関するクイズを行いました。上級生が率先して英語でコミュニケーションをとり、たくさんの笑顔が見られました。留学生は日本の授業を体験するだけでなく、全校生徒と交流を深めることができ、生徒たちにとっても、自分の英語力を実践的に活かす貴重な体験になりました。



幼稚園

恒例の夏まつりを行いました。子どもたちの浴衣姿も見られ楽しいひとときを過ごしました。

7月23日、風が少し涼しさを運んでくる夕方から、夏休みの定番行事である「夏まつり」がスタートしました。提灯が揺れる園舎、子どもたちの浴衣姿は夏まつりのムードを高めます。ヨーヨーつりやくじ引きコーナーに加え、おばけ屋敷やなかよしシアターなど、いろいろなお楽しみコーナーを回り、親子の手にはそろってお土産がいっぱいです。家族の方々と一緒に楽しんだ夏まつり。ワイワイにぎやかな夏の思い出となりました。



大学

吹奏楽団が県大会で金賞受賞! 東関東吹奏楽コンクールに出場!

常磐大学吹奏楽団が、8月7日に茨城県立県民文化センターで行われた「第56回茨城県吹奏楽コンクール(大学の部)」で「金賞」を受賞しました。これは、創団以来の快挙。9月18日には茨城県代表として、神奈川県民ホールで行われた「第22回東関東吹奏楽コンクール・大学の部」に出場し、課題曲の「I/マーチ・スカイブルードリーム(矢藤学作曲)」と、自由曲の「祝典舞曲(保科洋作曲)」を演奏しました。2,500人級の大ホールで、少人数ながらトキワサウンドを響かせ、「銅賞」を受賞しました。

(写真提供: 株式会社フォトライフ)



高校

夏のオープンスクールに
1,900人を超えるご来場をいただきました。

7月27日から30日の4日間、オープンスクールを行い、合計1,900人を超える中学生ならびに保護者の方々にご来校いただきました。吹奏楽部による「ウェルカムコンサート」、合唱部の「校歌斉唱」、部活動紹介や今年度から新設された特進選抜コースの取り組み、催楽園ボランティアなど、生徒たちが自ら魅力を伝えました。その後は、スタンプラリーで校内を自由に見学したり、体験学習では「ジェルキャンドルを作ろう」や「3Dの世界」などの高校生活の一部を体験していただきました。



幼稚園

「わくわくチャレンジ」を開催。
短期大学の酒巻洋一先生と
初めてのマーブリング遊びに挑戦です。

9月8日、年少組で「絵画で遊ぼう」が行われました。マーブリング専用の絵の具を水面に垂らし、静かに混ぜ合わせると不思議な色合いの模様が浮かび上がります。そのカラフルな水面に子どもたちが画用紙を静かに置くと…。そのままのきれいな模様が写し出されました。偶然に出来上がった模様は一つとして同じものはありません。どれも幻想的な形で、子どもたちは、まるで手品を見ているようにじっと見入っていました。感動のひとつときでした。



智学館

第9回「智学館カップ」を開催。
伝統の応援合戦も見ごたえ十分でした。

6月19日、第9回智学館カップを開催しました。年次の枠を超え、全校生徒が赤団と青団に分かれて競い合いました。午前中の競技ではリレーや綱引き、短距離走などが行われ、最後まで諦めずに精一杯力を出し切る姿が見られました。午後は智学館カップの目玉イベントである応援合戦。積み重ねてきた練習の成果をすべて出しつくり、応援団長を中心としてどちらの団も一糸乱れぬすばらしい演技を披露。感動の涙が溢れました。今年も会場全体が一体感に包まれた1日になりました。



短大

キャリア教養学科の学生が
「G7茨城・つくば科学技術大臣会合
開催記念シンポジウム」に参加しました。

「G7茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会ポスターデザイン」に応募、優秀賞を受賞したキャリア教養学科1年の遠藤瞳さんが、5月15日、つくば国際会議場で開催されたシンポジウムに参加しました。ノーベル賞受賞者による講演や、日本を代表する研究者たちによるパネルディスカッションが行われ、シンポジウムの後、遠藤さんは「英語で進行していたが、内容がとても面白く、無限の可能性を持つ科学の世界にどんどん引き込まれた。この貴重な経験を生かしたい」と話してくれました。



幼稚園

地震のときも
落ち着いて行動できるよう
避難訓練を行いました。

9月16日、地震発生を想定し、おうちの方にお迎えに来ていただく地震時保護者お迎え訓練を行いました。5月に一度、保育室で遊んでいる状況で避難訓練をした経験を踏まえ、子どもたちは先生方からの約束の話をよく聞いて、おしゃべりをせず、真剣に参加できていました。年長児が年中・年少児に声をかけ、手を引きながら見和グラウンドまでの坂道を上がっていく姿に逞しさを感じる場面も。保護者の方にも「お家に着くまでが避難訓練」という共有意識でご協力をいただきました。



高校

特進選抜コースの1年生が校外学習で
将来を考えるきっかけを得てきました。

9月13日、特進選抜コース1年生がつくば市を訪れ、将来の「生き方」を考える一日を過ごしました。JICAでは施設見学や研修員の方との交流、他校生とのワークショップを通して、発展途上国の現状や国際協力のあり方について理解を深めました。筑波大学では繁森先生（生物資源学類）の模擬授業、大学院生との意見交換会、図書館見学を行い、その後、サイエンススクエアつくばでは最先端の科学技術に触れました。生徒は新たな自分を発見し、将来の「生き方」を考える機会になったと思います。

Spotlight

地域や世界で力を試し、さまざまな活動を通して実践的に学ぶ。また、優れた研究成果を社会に発信する。こうした学内外で行われている活発な活動にスポットを当ててご紹介します。

体育系部活動



水泳部

県総合優勝、全国大会出場が目標です。今年度は県民総体・関東県予選で男女総合2位、関東大会に14名が出場しました。さらに、インターハイに3名、全国JOCに2名が出場し、練習の成果を発揮しました。

文化系部活動



書道部

各種展覧会への出品を目指しています。県総文祭には4作品入選し、高円宮杯では日本武道館賞、ふれあい書道展では筆都大賞などを受賞しました。また、書道パフォーマンスにも挑戦しています。

体育系部活動



男子サッカー部

今年で創部17年目となり、近年は安定して県大会へ進んでいます。昨年度は県ベスト4、今年度は関東大会予選ベスト8でした。冬の選手権は全国大会出場を目指し、一戦一戦大切にプレーします。

体育系部活動



体操部

今年のインターハイでは、女子団体6位入賞を果たしました。毎日の練習は厳しく辛いですが、仲間と乗り越え、男女共にインターハイでの上位入賞が達成できるよう、さらに上を目指します。

常磐大学高校の部活動をご紹介します。

2学期開始とともに3年生が引退。バトンは1、2年生に引き継がれ、新たな目標に向かって始動しました。

Spotlight 01 部活動

体育系部活動



女子サッカー部

春のインターハイ県予選では5位に沈み、その悔しさをバネに夏練習を乗り切りました。迎えた秋の選手権県予選は2位となり、茨城第2位として関東大会の切符を獲得することができました。

体育系部活動



陸上部

「一日一日を大切に」を合言葉に、体の構造を理解し、動きを考えながら週6日の練習を積み重ねています。地区の新人戦では夏合宿の成果もあり、部員のほとんどが自己ベストを更新しました。

文化系部活動



茶道部

水戸の梅まつり、あじさいまつり、大好きいばらきふれあいまつりの高校生野点茶会に参加しました。一盃のお茶を通しておもてなしできるように、裏千家茶道の稽古に日々励んでいます。

体育系部活動



女子ソフトボール部

県大会優勝を目標に日々の練習に励んでいます。週末には県外の強豪校と練習試合を行い、練習の成果をどれだけ発揮できるか挑戦しています。念願の県優勝に向け、一丸となってがんばります。

体育系部活動



男子ソフトテニス部

「感謝」の気持ちを忘れず練習に励み、関東・インターハイ出場を目標にしています。最近では地区予選で上位に入賞できるようになり、県大会でも活躍できるよう、一生懸命練習しています。

文化系部活動



吹奏楽部

「常に凛々しく誠実さをもって」を部訓に掲げ、楽しく厳しく練習しています。今年度の吹奏楽コンクールは、中央地区大会で優良賞を受賞しました。来年度こそは、県大会出場を果たします。

ロボット科学部が WRO JAPAN 2016決勝大会に出場しました。



ゴミを収集するロボットと分別するロボットが協調して動作します。(荒井さん、写真左)
直前で内容を変更したのですが、時間内に発表できホッとしました。(安藤さん、写真右)

決勝大会での経験を将来につなげたい。

荒井 直輝 智学館中等教育学校 5年次

私たちはオープンカテゴリーに参加し、テーマである「Rap the Scrap」=廃棄物を削減・管理しリサイクルするためのロボットを制作して、プレゼンテーションを競いました。注目したのは古い埋立地に眠るゴミを資源として再利用することでした。趣旨に沿ってロボット本体も古い機種を活用したため、メモリーが足りないなどの課題があり、プログラミングには工夫が必要でした。レポートに関しては安藤さんがゴミ問題を広い視点でとらえてくれたおかげで、良い内容になったと思います。大会当日は、他チームの技術レベルの高さを見せつけられましたが、中でも決勝に残れたのは、企画が認められたのだと感じ、自信につながりました。



WRO(World Robot Olympiad)とは自律型ロボットによる国際的なロボットコンテストです。今回、荒井さん、安藤さんがエントリーしたオープンカテゴリーには、全国からプレゼンテーションとレポートによる事前審査を勝ち抜いた6チームの高校生が参加しました。

力を合わせて、より良い発表ができました。

安藤 凜 智学館中等教育学校 5年次

ゴミ処理の現状を知るため、協力して水戸市役所や清掃工場などを取材したり、海外の情報なども収集してレポートを作成しました。埋立地は掘り返せば有害なガスが発生する恐れや爆発の危険もあるため、ロボットを使う意義もあります。また、回収に新たな資源を使わないよう、ロボットのエネルギーを生ゴミなどの有機ゴミによるバイオマス発電・バイオガス発電でまかなうこともポイントでした。大会のレベルなどをほとんど知らないまま参加したため、不安と緊張でいっぱいでしたが、大勢の前でのプレゼンテーションは良い経験になりました。審査員からいただいた話し方や声の大きさなどに関するアドバイスを今後に生かしたいと思います。

常磐大学の教員が執筆した さまざまな分野の著書をご紹介します。



- ① 障害者グループホームと世話人
一言葉と支援が出会う風景の中で
 - ② 宮本 秀樹
コミュニティ振興学部 准教授
 - ③ 宮本秀樹 著
 - ④ 2016年7月
 - ⑤ 生活書院
- 「世話人」は、障害者(高齢者も)の日々の暮らしを大きく支えています。世話人の語られた言葉の中に、支援することの喜びや達成感、揺れや戸惑いなどをちりばめた書です。



- ① 社会教育の学習論
—社会教育がめざす人間像を考える—
 - ② 伊藤 真木子
コミュニティ振興学部 助教
 - ③ 鈴木真理・青山鉄兵・内山淳子 編著
 - ④ 2016年5月
 - ⑤ 学文社
- 学校以外の場で行われる教育・学習の意味や実際について考えようとする本です。「社会的マイノリティと社会教育の役割」という章の執筆を担当しました。



- ① よくわかる生涯学習 改訂版
 - ② 伊藤 真木子
コミュニティ振興学部 助教
 - ③ 香川正弘・鈴木真理・永井健夫 編著
 - ④ 2016年5月
 - ⑤ ミネルヴァ書房
- 「生涯学習」という考え方や実践を理解するための基礎的な事柄がまとめられている本です。「生涯学習の支援者」について解説する章の執筆を担当しました。



- ① 保育の道をめざす人へのアドバイス 改訂版
—養成校での学び方から就職活動まで—
 - ② 紙透 雅子
幼児教育保育学科 教授
 - ③ 紙透 雅子 編
 - ④ 2016年8月
 - ⑤ みらい
- 保育士や幼稚園教諭として働くための準備をどのようにしたらよいかを、8つの章にわたって示した本書は、特に、幼児教育保育学科に在籍する皆さんの参考になるはずだ。

- ① 著書名
- ② 氏名・所属・職位
- ③ 著者・編者等
- ④ 発行年
- ⑤ 発行所

大学・短大

- ★ 常磐短期大学創立50周年記念式典・祝賀会 11/19(土)
- ★ 第7回オープンキャンパス(高校生向け公開講座) 12/3(土)・12/17(土)
- ★ 幼教フェスタ 12/25(日)

高校

- ★ Japan trip(ハリーエインリー高校来校) 11/11(金)～11/14(月)
- ★ クリスマスフェスティバル 12/17(土)
- ★ 推薦入試 1/9(月)
- ★ 一般入試 1/16(月)

智学館

- ★ English Day 12/17(土)
- ★ Walking Day 2/10(金)
- ★ 入試 11/20(日)・1/6(金)・1/21(土)

幼稚園

- ★ 入園願書受付・入園審査 11/1(火)
- ★ 育児に役立つ勉強会 11/16(水)
- ★ 発表会 12/3(土)

諸澤幸雄奨学金
奨学生決定のお知らせ

2016年7月に開催した諸澤幸雄奨学金奨学生決定通知書授与式について、以下のとおりご報告いたします。



- 大学 …Ⅰ種奨学生 10名 ●短期大学 …Ⅱ種奨学生 2名
- …Ⅱ種奨学生 3名

学校法人常磐大学
ローズヴィラ水戸奨学金制度
奨学生決定のお知らせ

2016年度「学校法人常磐大学ローズヴィラ水戸奨学金制度」による奨学生4名が決定しましたので、以下のとおりご報告いたします。



- コミュニティ振興学部ヒューマンサービス学科 3年生 …2名
- コミュニティ振興学部ヒューマンサービス学科 4年生 …2名

寄付者ご芳名

ご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。(敬称略)
[2016年5月～8月受け付け分]

■ 諸澤幸雄奨学金制度の創設・充実

| 個人 | |
|------------------|---------------------|
| 5,000円 | 大工原 孝則 |
| 4,000円 | 坂井 知志* |
| 芳名のみ公表 | 江原 麻子*、齋藤 祐輔*、田邊 正* |
| 累計金額 95,822,208円 | |

■ 見和キャンパス開設50年施設整備事業募金

| 個人 | |
|-----------------|--|
| 1,000,000円 | 森 征一* |
| 200,000円 | 富田 信穂* |
| 40,000円 | 小柳 武*、富田 恭平* |
| 30,000円 | 大武 茂樹* |
| 20,000円 | 中村 和彦* |
| 10,000円 | 野上 大介* |
| 芳名のみ公表 | 石田 修平*、海老澤 秀揮*、関 いつみ*、豊田 説子*、久松 雄大*、平塚 修一*、横山 正和*、吉田 成利* |
| 累計金額 1,595,000円 | |

■ 体育活動への支援(野球部)

| | |
|----------|--------|
| 300,000円 | 千手 正治* |
|----------|--------|

■ 著作権思想の普及に資する寄付講座の設置

| | |
|------------|-------------------|
| 2,000,000円 | 一般社団法人 日本音楽著作権協会* |
|------------|-------------------|

●複数回お申し込みくださいました方は芳名に*を付しました。

新体育館建設等各種募金へのご支援について



学校法人常磐大学は2016年に短期大学創立50周年を迎え、施設整備事業を実施する運びとなりました。
創立に合わせて整備した見和キャンパス内各建物も開設以来50年を経て老朽化が進んできたことから、2016年度事業として新体育館の建設およびラーニング commons の整備に取り組むことといたし、建設資金等へのご支援を仰ぐ目的で、「見和キャンパス開設50年施設整備事業募金」を計画いたしました。
厳しい経済状況中でのお願いとなりますが、趣旨をご理解いただき、皆さまからの温かいご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

★寄付金のお申し込みおよびお問い合わせ

学校法人常磐大学 会計経理課 寄付係

tel: 029-232-2554 e-mail: kifu@tokiwa.ac.jp

ホームページ寄付サイト: <http://www.tokiwa.ac.jp/fund/>

寄付募集の詳細については、ホームページでご覧いただけます。

アンケートご協力をお願い

- ①印象に残った記事とその理由など
 - ②今後、広報誌で取り上げてほしいテーマなど
- 皆さまからのご意見・ご感想をお寄せください。
※名前、住所、本字との関係(在籍者の場合、所属する学校名)も併せてご記載ください。

★お寄せいただいた方の中から、抽選で20名様に常磐大学オリジナルグッズを差し上げます。



kikaku@tokiwa.ac.jp
〒310-8585 茨城県水戸市見和1丁目430-1